

令和4年度 自己評価表（年度当初）

鳥取県立倉吉西高等学校

教育目標	校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。	今年度の重点目標	1 人間性や社会性の向上 2 チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実 3 学びの深化と主体的学びの構築 4 情報発信の更なる充実 5 働き方改革の推進
中長期目標	1 道徳教育の充実 2 キャリア教育の充実 3 高い志の実現に向けた、学ぶ意欲の向上		

評価基準 A:十分達成〔100%〕 B:概ね達成〔80%程度〕 C:変化の兆し〔60%程度〕 D:まだ不十分〔40%程度〕 E:目標・方策の見直し〔30%以下〕

年 度 当 初					評 価 結 果（ 月）		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
人間性や社会性の向上	○個人や集団の間に存在している様々な「違い」の理解度を深める。 ○「人との関わり」や「出会い」を大切にしていくなことで、豊かな心を育成し、主体性を培う。	○思いやりをもって人と接することができている生徒が多いが、自分本位で物事を考えた言動をする場面もある。 ○校外での活動機会や講演の機会が限られており、新たな出会いを設定することが限定されている。	○存在する違いを良く理解し、積極的に自分のまわりの人たちのために行動することができる。また、人の思いに共感することができる。 ○様々な場面で「人との関わり」や「出会い」を大切にする心が育っている。	○ホームルーム活動をはじめとする様々な教育活動を通して、様々な立場で物事を考える場面を設定し、思いやりをもち相手軸で考える行動ができるようにする。 ○ボランティア活動や講演会、校外研修などを通して、新たな出会いの場面を設ける。			
チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実	○「地域を支える、貢献に資する人材を育成する」高校として、倉吉市や地元大学等と連携しながら、「ふるさとキャリア教育」を推進する。 ○他校生との交流を通して、インプットする場面やアウトプットする場面を経験することで、自らの視野や選択肢の拡大につなげる。	○地域や地元大学等との連携の場が少なく、地域理解・課題解決への取組は十分とは言えない。 ○若者地域づくり交流会や日本女性会議プレイベントなど、校外でのイベントやシンポジウム等に参加し、探究につながる活動をする生徒が出てきているが、拡がりが十分ではない。	○地域や地元大学との連携により、地域理解が進み、課題解決への取組等を積極的に探究しようとする生徒が増加している。 ○校外でのイベントやシンポジウムに積極的に参加することで、自らの視野や選択肢が広がり、将来の学びや生き方について考える生徒が増加している。	○地元自治体や地元大学の協力を仰ぎながら、講演会や施設・企業訪問等の機会をとらえ、生徒が地域や社会について理解を深め、視野を広げる活動を推進する。 ○生徒、教職員の連携を密にし、シンポジウム等への参加を成長の場面ととらえ、応募・参加を呼びかけるとともに、必要な支援を行う。			
学びの深化と主体的学びの構築	○図書館を積極的に活用し、課題解決能力の育成に向けた学びを深める。 ○ICTの効果的な活用をさらに進め、生徒の主体的学びにつなげる授業を展開する。	○貸出冊数・授業利用時間共に減少しており、図書館の計画的・継続的な利用には至っていない。 ○ICT機器を活用した授業が定着しつつあり、授業内で生徒が積極的に活用する姿が見られるが、主体的な学びや学力の定着には至っていない。	○授業や総合的な探究の時間等で、図書館を計画的・継続的に活用することで、生徒が図書室を主体的な学びの場として活用している。 ○生徒がICTを積極的に活用し、主体的な学習者へと変容している。 ○Chromebook を利用した学びを、全ての教科、総合的な探究の時間で行っている。	○図書館からの情報発信や様々な企画等により、積極的な活用を促していく。 ○ICTを活用した校内研究授業を行い、活用方法の共有や研修を進めていく。 ○日常的な連絡においてもChromebookを活用し、それを授業活用に繋げていく。			
情報発信の更なる充実	○ホームページやインスタグラム等を活用し、生徒の活動の様子を積極的に発信する。	○必要な情報を随時ホームページやインスタグラムで発信できているが、更新されていない部活動情報もある。	○各ステージ、各グループ、各部活動の情報が時機を逃さず積極的に配信されている。	○各ステージ、各グループ、各部活動で行事、大会毎にホームページを更新する。			
働き方改革の推進	○「前例踏襲」を廃止し、「記録」をもとに業務を行い、「よりよいもの」へと更新していく。 ○時間外業務時間を更に削減していく。	○諸活動の見直し・変革期にあたり、前年度の活動をそのまま踏襲すること自体が困難な状況にもある。 ○会議の精選及び実施回数の精選により、時間外業務削減につながっている。	○「記録」をもとに業務内容等の修正が習慣化されており、次年度の改善すべき点が明確になっている。 ○業務の偏りがなく、すべての教職員の時間外業務時間が減少している。	○「記録」をもとに業務の改善点を明確にし、業務内容の改善や時間短縮につなげる。 ○Chromebook と Google のアプリを用いて、記録の整理を行い、各活動がより良くなるための議論に時間を費やせるようにする。			